

察を行い、当海域における尾虫類群集構造の季節変動や年変動を明らかにしていく予定である。

●引用文献

- Alldredge AL (1972) Abandoned larvacean houses: a unique food source in the pelagic environment. *Science* 177: 885-887
- Itoh H (1990) Seasonal variation of appendicularian fauna off Miho Peninsula, Suruga Bay, central Japan. *Bulletin of Plankton Society of Japan* 36: 111-119
- Motoda S (1957) North Pacific standard plankton net. *Information Bulletin on Planktology in Japan* 4: 13-15
- Robison BH, Reisenbichler KR, Sherlock RE (2005) Giant larvacean houses: rapid carbon transport to the deep sea floor. *Science* 308: 1609-1611

- Sato R, Tanaka Y, Ishimaru T (2003) Species-specific house productivity of appendicularians. *Marine Ecology Progress Series* 259: 163-172
- Shiga N (1985) Seasonal and vertical distributions of appendicularia in Volcano Bay, Hokkaido, Japan. *Bulletin of Marine Science* 37: 425-439
- Shiga N (1997) Class Appendiculata. In: Chihara M, Murano M (eds), *An Illustrated Guide to Marine Plankton in Japan*. Tokai University Press, Tokyo. pp 1393-1414
- Tokioka T (1955) General consideration on Japanese appendicularian fauna. *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory* 4: 251-261
- Tomita M, Shiga N, Ikeda T (2003) Seasonal occurrence and vertical distribution of appendicularians in Toyama Bay, southern Japan Sea. *Journal of Plankton Research* 25: 579-589

プランクトン採集の風景

Plankton sampling by AMSL



研究用船艇 AMSL-V で定点に到着すると、2 kg の錘をつけたプランクトンネット（直径 45cm、目合い 0.1 mm の NORPAC ネット）が投入される。ネットに結び付けられたロープは、左舷に設置されたウインチの滑車を通してスルスルと海底に向けて引き込まれる。ロープを 30 m 送り出したところでウインチを作動させ、約 1 m / 秒の速さで巻き上げにはいる。回収したネットのコッドエンド（集められた試料が溜まる部分）の内容物を全て標本びんに移し、直ちにホルマリン原液を最終濃度が約 5% になるように加えて固定する。基本的に 1 回の採集で 2 回の曳網を行うため、2 個の標本が出来る。研究所に持ち帰った標本は、採集年月日や濾水計の読み取り値等を記入したラベルを入れた後、所定の標本棚に収容して保管される。これが毎月 1 回のプランクトン採集である。2002 年以前は、ウインチがなかったため、ネットを曳き上げるのがなかなか大変だったが、周辺環境を示す重要な生物資料と考えて、阿嘉島臨海研究所では設立後間もない 1989 年 3 月から現在（2009 年 2 月）まで 20 年間にわたり採集を続けている。総標本数は 446 個に達した。

これまでに Omori et al. (2003) や佐藤 (2009) などによって標本が用いられたが、それらはほんの一部で、残念ながらほとんどは活かされないまま、標本棚に興味ある研究者に観察される機会を待っている。

●引用文献

- Omori M, Isokawa H, Cha SJ (2003) Species list of Akajima copepods : 阿嘉島臨海研究所利用報告書 . 3pp
- 佐藤 カ (2009) 2008 年夏季の阿嘉島周辺海域における尾虫類の出現状況 . みどりいし 20: 38-40

(S & I)